

1 東京都・大阪市中央卸売市場の需給動向(令和5年4月)

野菜振興部 調査情報部

【要約】

- 東京都中央卸売市場における野菜の入荷は、入荷量は11万653トン、前年同月比93.2%、価格は1キログラム当たり275円、同101.1%となった。
- 大阪市中央卸売市場における野菜の入荷は、入荷量は3万5178トン、前年同月比95.8%、価格は1キログラム当たり251円、同96.5%となった。
- 6月は西南暖地産が終盤を迎え、関東産から東北産へ、さらに平野から高原へと産地が移動していく重要な時期である。ここ10年、初夏の気候の振れ幅が広がりやすくなっており、野菜の出回りが不安定になり価格が高止まりする傾向にある。今年の6月についても、4～5月と同様に、平年より価格が高い展開が予想される。

(1) 気象概況

上旬は、6日から7日頃に前線を伴った低気圧が日本海を進んだため、全国的に曇りや雨の天気となり、低気圧の影響を受けた北日本日本海側や、湿った空気が流れ込みやすかった西日本太平洋側では、まとまった雨が降り、旬降水量は多かった。期間のはじめと終わりは、高気圧に覆われて晴れた日が多く、湿った空気の影響を受けにくかった東・西日本日本海側と沖縄・奄美の旬間日照時間は多かった。北日本から西日本にかけて暖かい空気が流れ込みやすく、また、北日本を中心に上空の暖かい空気に覆われやすかったため、北・東・西日本の旬平均気温はかなり高く、北日本の旬平均気温平年差は+2.9℃で、1946年の統計開始以降、4月上旬として最も高かった。一方、沖縄・奄美では、期間の終わりに大陸から進んできた冷涼な高気圧に覆われて気温が平年を下回る日があり、旬平均気温は、北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美では平年並だった。旬降水量は、北日本日本海側と西日本太平洋側で多かった。一方、東日本太平洋側と沖縄・奄美で少なく、北日本太平洋側と東・西日本日本海側では平年並だった。旬間日照時間は、東・西日本日本海側と沖縄・奄美で多く、北日本日本海側と北・東・西日本太平洋側では平年並だった。

中旬は、15日頃には前線を伴った低気圧が本州付近を通過して全国的にまとまった雨が降り、19日には沖縄・奄美で大雨が降った所があったため、旬降水量は、沖縄・奄美でかなり多く、北・西日本日本海側と北・西日本太平洋側で多かった。東日本日本海側と東日本太平洋側では平年並だった。旬間日照時間は、期間の前半を中心に高気圧に覆われやすかった沖縄・奄美ではかなり多かった。一方、北日本日本海側で少なく、北・東・西日本太平洋側と東・西日本日本海側では平年並だった。旬平均気温は、南から暖かい空気が流れ込みやすかったため、北・東日本と沖縄・奄美でかなり高く、西日本で高かった。

下旬は、低気圧や前線と高気圧が日本付近を交互に通過し、低気圧や前線の通過に伴い本州付近ではまとまった雨も降ったため、旬降水量は、西日本日本海側と西日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側で多かった。一方、沖縄・奄美で少なく、北・東日本太平洋側と東日本日本海側では平年並だった。旬間日照時間は、低気圧や前線の影響を受けた西日本日本海側や西日本太平洋側と、湿った空気の影響で曇りの日が多かった沖縄・奄美で少なかった。一方、高気圧に覆われやすい時期があった北日本太平洋側で多く、東日本日本海側と東日本太平洋側では平年並だった。旬平均気温は、高気圧に覆

れやすい時期があった北日本で高く、東・西日本と沖縄・奄美では平年並だった。

旬別の平均気温、降水量、日照時間は以下の通り（図1）。

図1 気象概況

| | 平均気温 | | | 降水量 | | | 日照時間 | | |
|-----|------|----|----|--------------|----|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 |
| 北日本 | | | | 日本海側 太平洋側 | | 日本海側 太平洋側 | | 日本海側 太平洋側 | 日本海側 太平洋側 |
| 東日本 | | | | 日本海側 太平洋側 | | | 日本海側 太平洋側 | | |
| 西日本 | | | | 日本海側 太平洋側 | | | 日本海側 太平洋側 | | |

資料：気象庁「4月の天候」

| | | | |
|------------|--|--|--|
| 1 平年を上回る水準 | | | |
| 2 平年並み | | | |
| 3 平年を下回る水準 | | | |

(2) 東京都中央卸売市場

東京都中央卸売市場における野菜の入荷は、

入荷量は11万653トン、前年同月比93.2%、価格は1キログラム当たり275円、同101.1%となった（表1）。

表1 東京都中央卸売市場の動向（4月速報）

| 品目 | 入荷量 (t) | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 価格 (円/kg) | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 価格 (円/kg) の推移 | | |
|--------|---------|---------|---------|-----------|---------|---------|---------------|-----|-----|
| | | | | | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 |
| 野菜総量 | 110,653 | 93.2 | 87.9 | 275 | 101.1 | 111.8 | 271 | 276 | 278 |
| だいこん | 8,455 | 89.7 | 83.1 | 99 | 103.6 | 111.6 | 83 | 113 | 102 |
| にんじん | 6,851 | 93.7 | 90.6 | 173 | 136.4 | 111.1 | 160 | 174 | 186 |
| はくさい | 5,307 | 88.5 | 83.8 | 86 | 112.4 | 129.9 | 79 | 83 | 98 |
| キャベツ類 | 17,438 | 90.1 | 90.7 | 106 | 100.2 | 114.4 | 99 | 111 | 109 |
| ほうれんそう | 1,232 | 93.2 | 97.4 | 529 | 113.1 | 114.9 | 522 | 573 | 489 |
| ねぎ | 3,442 | 90.1 | 96.6 | 313 | 101.4 | 95.4 | 286 | 292 | 371 |
| レタス類 | 6,288 | 91.5 | 88.8 | 189 | 107.4 | 109.7 | 185 | 201 | 179 |
| きゅうり | 6,370 | 94.7 | 88.2 | 312 | 113.4 | 124.5 | 344 | 308 | 284 |
| なす | 2,256 | 77.5 | 83.5 | 427 | 126.1 | 109.3 | 416 | 469 | 401 |
| トマト | 5,829 | 85.6 | 80.0 | 408 | 110.4 | 115.1 | 433 | 400 | 390 |
| ピーマン | 2,399 | 95.2 | 99.1 | 591 | 121.3 | 128.0 | 547 | 586 | 644 |
| さといも | 283 | 74.5 | 80.6 | 266 | 101.2 | 95.0 | 243 | 272 | 287 |
| ばれいしょ | 6,996 | 102.1 | 87.6 | 204 | 79.8 | 106.5 | 214 | 219 | 183 |
| たまねぎ | 12,622 | 137.6 | 103.2 | 110 | 39.9 | 85.4 | 119 | 107 | 103 |

資料：東京青果物情報センター「青果物流通月報・旬報」

注1：平年比は過去5カ年平均との比較。

注2：豊洲、大田、豊島、淀橋、葛西、北足立、板橋、世田谷、多摩ニュータウンの9市場のデータである。

根菜類は、にんじんの価格が、月間を通して堅調な動きとなり、大幅な安値で推移した前年を3割以上上回り、平年を1割強上回った（図2）。

葉茎菜類は、ねぎの価格が、夏ねぎの出荷が開始した下旬に上がり、やや安めに推移した前年をわずかに上回り、平年をやや下回った（図3）。

果菜類は、ピーマンの価格が、入荷量の減少に伴い下旬に上がり、前年を2割以上上回り、平年を3割近く上回った（図4）。

土物類は、たまねぎの価格が、大幅な高値で推移した前年を6割強下回り、平年を1割以上下回った（図5）。

なお、品目別の詳細については表2のとおり。

図2 にんじんの入荷量と卸売価格の推移

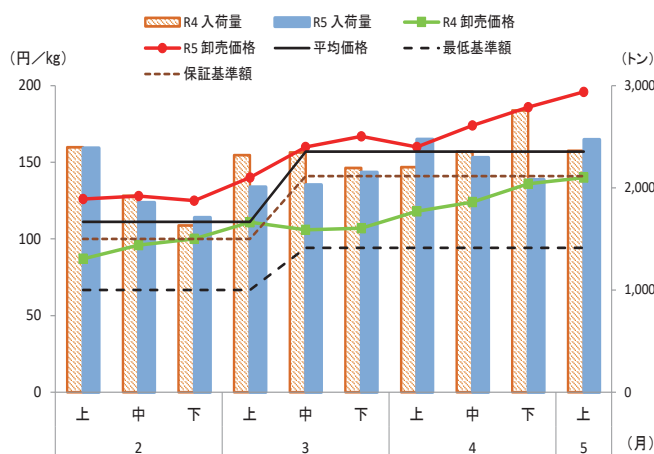


図3 ねぎの入荷量と卸売価格の推移

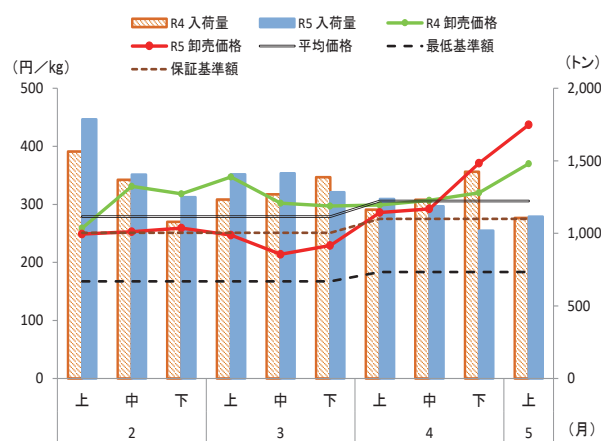


図4 ピーマンの入荷量と卸売価格の推移

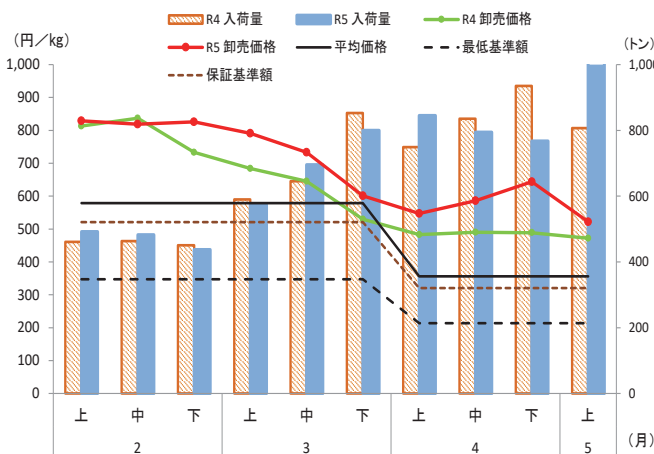
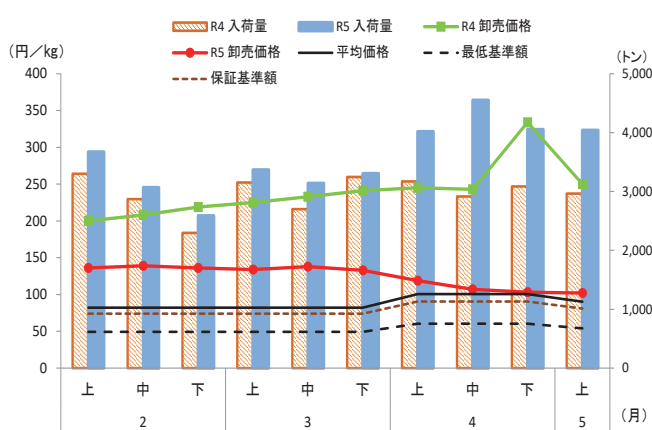


図5 たまねぎの入荷量と卸売価格の推移







資料：東京青果物情報センター「青果物流通旬報」

- ※1 卸売価格とは、東京都中央卸売市場の平均卸売価格で、平均価格、保証基準額および最低基準額とは、関東ブロックにおける価格である。
- ※2 平均価格とは、指定野菜価格安定対策事業（以下「事業」という）における、過去6カ年の卸売市場を平均した価格を基に物価指数等を加味した価格である。
- ※3 事業における価格差補給交付金は、平均販売価格（出荷された野菜の旬別およびブロック別の平均価額）を下回った場合に交付されるため、上記の各表で卸売価格が保証基準額を下回ったからといって、交付されるとは限らない。

表2 品目別入荷量・価格の動向（東京都中央卸売市場）

| 類別 | 品目 | 4月の入荷量・価格の動向 |
|------|--|---|
| 根菜類 | だいこん  | 千葉産中心の入荷となった。作付面積は前年並みで、3月以降の気温の上昇と適度な降雨により、若干遅れ気味であった生育は前年並みまで回復した。総入荷量はやや少なかった前年を1割以上下回り、平年を2割近く下回った。 価格は、神奈川産が終了した中旬以降堅調な動きとなり、高めに推移した前年をやや上回り、平年を1割強上回った。 |
| | にんじん  | 徳島産中心の入荷となった。作付面積は前年並みで、乾燥により生育遅れが散見され、寒さの影響により若干細物傾向となった。土壌病害が散見されたが出荷に影響はない。総入荷量は、少なめに推移した前年をかなりの程度下回り、平年を1割弱下回った。 価格は、月間を通して堅調な動きとなり、大幅な安値で推移した前年を3割以上上回り、平年を1割強上回った。 |
| 葉茎菜類 | はくさい  | 茨城産中心の入荷となった。作付面積は前年をやや下回り、生育は干ばつ傾向で遅延気味であったが、気温の上昇に伴い回復してやや前進した。総入荷量は前年を1割以上下回り、平年を2割近く下回った。 価格は、秋冬作終了による数量減から堅調な動きとなり、前年を1割以上上回り、平年を3割近く上回った。 |
| | キャベツ類  | 神奈川産を中心に愛知産、千葉産の入荷があった。神奈川産の作付面積は前年並みで、3月の気温上昇に伴い10日以上前進した。愛知産の作付面積は前年並みで、停滞していた生育は気温の上昇に伴い回復して順調。千葉産の作付面積は前年並みで、3月以降の気温上昇と適度な降雨によりやや前進した。総入荷量は前年を1割ほど下回り、平年を1割弱下回った。 価格は、月間を通して堅調な動きとなり、やや高めに推移した前年並みとなり、平年を1割以上上回った。 |
| | ほうれんそう  | 茨城産、群馬産中心の入荷となった。各産地とも作付面積は前年並みで、高冷地中心に融雪も早く、高めの気温推移から生育はやや前進傾向となった。平坦地の秋冬作の残量は低温・乾燥の影響により露地作を中心に葉の傷みが散見され、切り上がりも早かった。総入荷量は多かった前年をかなりの程度下回り、平年をわずかに下回った。 価格は、特売需要で中旬に堅調な動きを見せ、下旬に向け落ち着いたものの、前年、平年とも1割以上上回った。 |
| | ねぎ  | 千葉産を中心に茨城産、埼玉産など関東産中心の入荷があった。各産地とも作付面積は前年並みで、3月以降の気温上昇と適度な降雨によりやや前進傾向となった。一部圃場で病害が散見されており、抽苔も早く見られる。総入荷量は多かった前年を1割ほど下回り、平年をやや下回った。 夏ねぎの出荷が開始した下旬に価格を上げ、やや安めに推移した前年をわずかに上回り、平年をやや下回った。 |
| | レタス類  | 茨城産中心の入荷となった。作付面積は前年をやや下回り、低温による生育遅延から一転、気温が高めに推移したことからやや前進傾向となっている。後続の群馬産の作付面積は前年を下回り、生育はおおむね順調。総入荷量は前年を1割近く下回り、平年を1割以上下回った。 価格は、気温の上昇に伴い堅調な動きとなり、前年をかなりの程度上回り、平年を1割弱上回った。 |
| 果菜類 | きゅうり  | 群馬産、埼玉産を中心に宮崎産の入荷があった。群馬産の作付面積は前年並みで、低温・乾燥の影響による遅延から回復して順調である。埼玉産の作付面積は前年並みで、高めの気温に恵まれ順調。宮崎産の作付面積は前年並みで、低温の影響により一部草勢の低下がみられたものの、生育はおおむね順調。総入荷量はやや少なめに推移した前年をやや下回り、平年を1割以上下回った。 価格は、中旬以降徐々に落ち着きを見せたものの、やや高めに推移した前年を1割以上上回り、平年を2割以上上回った。 |
| | なす  | 高知産中心の入荷となった。作付面積は前年並みで、やや成り疲れが散見されたが、その後の天候により樹勢は回復傾向。後続の群馬産の作付面積は前年並みで、高めの気温推移から生育は前進した。総入荷量は多かった前年を2割以上下回り、平年を2割近く下回った。 価格は、数量減により堅調な動きとなり、安めに推移した前年を2割以上上回り、平年を1割近く上回った。 |
| | トマト  | 熊本産、栃木産を中心に愛知産などの入荷があった。熊本産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調も、一部で着果のばらつき、黄化葉巻病などの病害が散見された。栃木産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調であったが、一部圃場で灰かび病の発生が散見され、コナジラミ類の発生も前年より多い。愛知産の作付面積は前年並みで、一部産地で遅延していた生育は回復傾向となった。総入荷量は少なめに推移した前年を1割以上下回り、平年を2割下回った。 価格は、下旬に向け徐々に落ち着いたものの、前年を1割ほど上回り、平年を1割以上上回った。 |

| | | |
|-----|--|---|
| | ピーマン  | 茨城産を中心に宮崎産、高知産の入荷があった。茨城産の作付面積は前年並みで、一部病害が発生しており、作柄不良の圃場が散見された。宮崎産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調であった。高知産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調も、一部曇雨天の影響により病害が散見された。総入荷量は前年をやや下回り、平年をわずかに下回った。 入荷量の減少に伴い下旬に価格を上げ、前年を2割以上上回り、平年を3割近く上回った。 |
| 土物類 | さといも  | 埼玉産中心の入荷となった。作付面積は前年並みで、収穫は終了している。年内出荷の比率が上昇し、残量自体は多くない。次年度の植え付けはほぼ終了している。中国産の輸入は少なく、前年の1割程度となっている。総入荷量は比較的残量の多かった前年を2割以上下回り、平年を2割弱下回った。 価格は、安めに推移した前年をわずかに上回り、平年をやや下回った。 |
| | ばれいしょ  | 鹿児島産を中心に北海道産、長崎産の入荷があった。鹿児島産の作付面積は前年並みで、1月の寒波の影響により茎や葉の枯れや折損、その後の乾燥による肥大遅れて小玉傾向となった。北海道産の作付面積は前年並みで、収穫は終了し貯蔵からの出荷となった。長崎産の作付面積は前年並みで、1月の寒波により生育は遅れていたが、3月の気温上昇と降雨により回復傾向となった。総入荷量は大幅に少なかった前年をわずかに上回り、平年を1割以上下回った。 価格は、大幅に高値で推移した前年を2割強下回り、平年をかなりの程度上回った。 |
| | たまねぎ  | 北海道産を中心に佐賀産の入荷があった。北海道産の作付面積は前年並みで、収穫は終了し貯蔵からの出荷となった。昨年夏の天候の影響を受けた地域はあるものの、全体としては作柄良好で肥大も良好。ただし残量は多くない見込み。佐賀産の作付面積は前年並みで、作柄はおおむね順調も、生育ペースはやや遅い。中国産の輸入は前年の4割程度となっている。総入荷量は少なかった前年を4割近く上回り、平年をやや上回った。 価格は、大幅な高値で推移した前年を6割強下回り、平年を1割以上下回った。 |

(執筆者：東京シティ青果株式会社 平田 実)

(3) 大阪市中央卸売市場

大阪市中央卸売市場における野菜の入荷は、
入荷量は3万5178トン、前年同月比95.8%、

価格は1キログラム当たり251円、同96.5%
となった(表3)。

品目別の詳細については表4の通り。

表3 大阪市中央卸売市場の動向(4月速報)

| 品目 | 入荷量 (t) | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 価格 (円/kg) | 前年比 (%) | 平年比 (%) | 価格(円/kg)の推移 | | |
|--------|------------|------------|------------|--------------|------------|------------|-------------|-----|-----|
| | | | | | | | 上旬 | 中旬 | 下旬 |
| 野菜総量 | 35,178 | 95.8 | 88.6 | 251 | 96.5 | 112.4 | 243 | 253 | 258 |
| だいこん | 2,210 | 89.5 | 76.9 | 86 | 101.2 | 116.6 | 71 | 95 | 98 |
| にんじん | 2,496 | 98.1 | 96.7 | 164 | 133.3 | 108.3 | 160 | 162 | 168 |
| はくさい | 3,134 | 101.9 | 97.2 | 86 | 116.2 | 124.6 | 70 | 84 | 112 |
| キャベツ類 | 4,772 | 93.0 | 94.2 | 98 | 103.2 | 120.0 | 88 | 100 | 108 |
| ほうれんそう | 358 | 79.1 | 74.9 | 591 | 123.4 | 120.2 | 583 | 599 | 588 |
| ねぎ | 740 | 103.4 | 101.2 | 364 | 100.0 | 103.9 | 342 | 343 | 414 |
| レタス類 | 1,335 | 90.1 | 86.4 | 195 | 111.4 | 117.1 | 192 | 194 | 200 |
| きゅうり | 1,452 | 90.3 | 92.3 | 313 | 117.7 | 124.7 | 338 | 305 | 295 |
| なす | 859 | 86.8 | 99.9 | 394 | 115.5 | 106.6 | 384 | 425 | 370 |
| トマト | 1,635 | 88.8 | 89.7 | 395 | 108.2 | 110.9 | 417 | 385 | 383 |
| ピーマン | 494 | 95.9 | 86.7 | 586 | 132.3 | 127.1 | 529 | 620 | 615 |
| さといも | 60 | 123.1 | 97.9 | 271 | 87.1 | 88.7 | 260 | 261 | 295 |
| ばれいしょ | 3,124 | 94.2 | 82.8 | 207 | 81.8 | 109.5 | 266 | 199 | 170 |
| たまねぎ | 5,299 | 139.8 | 97.0 | 103 | 36.5 | 88.3 | 106 | 102 | 99 |


資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注1：平年比は過去5カ年平均との比較。

注2：大阪本場および大阪東部市場のデータである。

表4 品目別入荷量・価格の動向（大阪市中央卸売市場）

| 類別 | 品目 | 4月の入荷量・価格の動向 |
|------|--|---|
| 根菜類 | だいこん  | <p>鹿児島産、長崎産、香川産を中心に、千葉産や徳島産などの入荷もあった。九州産地は終盤となり、旬を追うごとに入荷減となった。後続産地の出遅れに加えて、各産地とも雨の日が多く、作業ができない日があり、出荷が不安定で入荷量は伸び悩んだ。月間全体では前年をかなりの程度下回り、平年を大幅に下回った。</p> <p>価格は、入荷減に伴って中旬以降高騰した。月間では前年をわずかに上回り、平年を大幅に上回った。</p> |
| | にんじん  | <p>徳島産を中心に、長崎産の春作の入荷があった。両産地とも小玉傾向に加え、降雨の影響により出荷が不安定となり、入荷量は伸び悩んだ。業務用向けに中国産など輸入ものの入荷もあり、全旬とも輸入物は前年をかなり上回った。月間全体では前年をわずかに下回り、平年をやや下回った。</p> <p>価格は、量販店からの春にんじんの引き合いがあり、不安定な入荷の影響により高値推移となった。月間では前年を大幅に上回り、平年をかなりの程度上回った。</p> |
| 葉茎菜類 | はくさい  | <p>茨城産を中心として、長崎産の残量入荷などがあった。九州の各産地は終盤を迎え、旬を追うごとに減少したが、後続の茨城産が気温高に伴って上中旬に前進出荷し、前年を大きく上回る入荷量となった。しかし月の後半には降雨の影響により伸び悩んだ。月間では茨城産は前年を大きく上回ったが、全体では前年をわずかに上回り、平年をわずかに下回った。</p> <p>価格は、中旬以降の降雨と、連休に向けて引き合いが強まったことにより、旬を追うごとに上昇し、月末に高騰した。月間では前年、平年とも大幅に上回った。</p> |
| | キャベツ類  | <p>寒玉系、春系共に愛知産が中心の入荷となった。寒玉系は大阪産の残量入荷もあったが中旬で切り上がり、後続の茨城産の入荷が下旬にあった。春系は兵庫産、和歌山産、神奈川産などの入荷もあった。全旬を通じて加工筋からの発注が多く、順調な入荷となったが、中旬に品種の切り替わりがスムーズにいかず入荷が不安定となった時期があった。月間全体では前年、平年ともかなりの程度下回った。</p> <p>価格は、入荷不安定により中旬に高騰し、旬を追うごとに上伸を続けた。月間では前年をやや上回り、平年を大幅に上回った。</p> |
| | ほうれんそう  | <p>福岡産を中心に後続の岐阜産の入荷も始まった。ほか徳島産などの入荷もあった。秋冬産地の福岡産と徳島産が気温高により前進出荷したことから切り上がり早く、岐阜産はスタートが早かったものの補填するほどには至らず、月間全体では前年、平年とも大幅に下回った。</p> <p>価格は、絶対量不足から全旬とも高値での推移となり、月間では前年、平年とも大幅に上回った。</p> |
| | ねぎ（白ねぎ）  | <p>鳥取産と群馬産が主体となり、埼玉産などの入荷もあった。各産地とも潤沢な出荷を続けた。降雨の影響により一時的に減少した時期もあったが、月間では前年を若干上回った。</p> <p>価格も安定して推移し、月間では前年を若干上回った。</p> |
| | ねぎ（青ねぎ）  | <p>徳島産を中心として、高知産や近隣の大阪産、奈良産などの入荷があった。朝晩の低温により生育が進まず、産地出荷量が増えず、入荷量は伸び悩んだ。月間全体では前年を大幅に下回った。</p> <p>価格は、業務用などの発注が多く引合いが強かったことと、品薄感により、高値で推移した。月間では前年を上回った。</p> |
| | レタス類  | <p>玉レタスは、この時期の主力である兵庫産や徳島産のラップ物が、朝晩の冷え込みや降雨の影響により出荷が不安定で、全旬とも入荷量が少なく、代替の茨城産が中心となった。裸物の長崎産も主体となったが、同様に産地出荷量は少なく、旬を追うごとに減少し、月間では前年の3割程度に留まった。各産地の月間全体でも前年を下回った。サニーレタスは福岡産が主体となり、生育は順調で産地出荷量も多く、特に中旬が多く、月間全体では前年を大幅に上回った。リーフレタスも福岡産が主体となる入荷で、サニーレタス同様、生育順調で入荷量が多かった。レタス類全体では玉レタスの不振から前年をかなりの程度下回り、平年をかなり大きく下回った。</p> <p>価格は、玉レタスは品薄感から高値推移となった。サニーレタスは玉レタスの入荷が不安定だったことに加えて量販店での特売需要もあり、入荷量が多い中でも高値推移となった。リーフレタスは加工向けでの売れ行きが悪く、価格は伸び悩んだ。レタス類の月間全体では前年をかなり大きく上回り、平年を大幅に上回った。</p> |

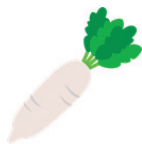
| | | |
|-----|--|---|
| 果菜類 | きゅうり  | <p>宮崎産が中心となり高知産や徳島産の入荷があった。各産地とも朝晩の冷え込みから生育が進まず、重油高の影響により加温せずに栽培する生産者も多く、産地出荷量が少なく入荷量は伸び悩み、月間では宮崎産が前年を大幅に下回った。全体では前年、平年ともかなりの程度下回った。</p> <p>量販店の商談価格が高く、また特売なども多くみられたため引き合いが強く、価格は旬を追うごとに下落した中でも高値で推移した。月間全体では前年、平年とも大幅に上回った。</p> |
| | なす  | <p>千両系は高知産を中心に大阪産や岡山産、長なすは福岡産と熊本産が主体となる入荷であった。急な朝晩の冷え込みにより、各産地とも生育が不安定となり産地出荷量も不安定な状況が続いた。高知産は旬を追うごとに入荷減となり、月間では前年をかなり下回った。大阪産と熊本産も前年をかなり下回り、福岡産も前年を大幅に下回り、全体では多かった前年をかなり大きく下回り、平年並みとなった。</p> <p>価格は量販店のフェアなどが多く、引き合いが強かったことから、全旬とも高値推移となった。月間では前年をかなり大きく上回り、平年をかなりの程度上回った。</p> |
| | トマト  | <p>熊本産と愛知産が中心となり、福岡産などの入荷もあった。朝晩の冷え込みから着色が進まず、産地出荷量は少ない状況が続いた。各産地とも全旬とも少なく、月間全体では前年をかなり大きく下回り、平年をかなりの程度下回った。</p> <p>価格は、入荷量が少ない中で高値推移となった。旬を追うごとに微落傾向ではあったが、月間では前年、平年ともかなりの程度上回った。</p> |
| | ピーマン  | <p>宮崎産を中心に高知産などの入荷があった。宮崎産は上旬の入荷量が少なかったものの、旬を追うごとに増加した。全体的にも月の前半が少なく、後半に回復傾向となったが、月間全体では前年をやや下回り、平年をかなり大きく下回った。</p> <p>価格は、品薄感がある中で量販店の特売が多く、引き合いが強かったことから中旬以降に高騰した。月間では前年、平年とも大幅に上回った。</p> |
| 土物類 | さといも  | <p>愛媛産が中心となる入荷であった。愛媛産は安値により引き合いが強まり、少なかった前年を大幅に上回る入荷量となったが、平年並みであった。輸入の中国産はほとんど入荷がなかった。月間全体では前年を大幅に上回り、平年をわずかに下回った。</p> <p>価格は、前年、平年ともかなり大きく下回った。</p> |
| | ばれいしょ  | <p>丸芋は北海道産の残量入荷と鹿児島産の新物入荷が主体となり、中旬以降は後続の長崎産と鹿児島産の本土産の新物もスタートした。上旬は、終盤を迎えた鹿児島産の離島物の切り上がりが早く、入荷が減少し、全体では前年を下回ったが、中旬以降は後続産地の潤沢な入荷があり、全体的に回復傾向となった。メークインは、上中旬は北海道産の残量入荷があり、鹿児島産は上旬は順調なスタートかと思われたが、降雨の影響により中旬以降の出荷量が伸びず、月間では前年を大幅に下回った。下旬には長崎産もスタートしたが少なく、新物の入荷が少ない中でも北海道産の産地残量が多かったことにより、全体では前年を大きく上回った。ばれいしょ全体では前年をやや下回り、平年を大幅に下回った。</p> <p>価格は、丸芋は上旬の入荷減により高騰したが、旬を追うごとに落ち着いて下落傾向となった。安価な北海道産の残量入荷が多かったことから、全体では安値となった。メークインは九州産の新物は入荷量が少ない中で高値となったが、安価な北海道産が多かったことから全体では前年を大きく下回った。ばれいしょ全体では前年を大幅に下回り、平年をかなりの程度上回った。</p> |
| | たまねぎ  | <p>北海道産の残量入荷に加え、長崎産、佐賀産、兵庫産の新物も主体となった。北海道産は産地残量が多く、上中旬は前年を大きく上回り、下旬には前年の3倍もの入荷量となった。長崎産、佐賀産、兵庫産は大玉傾向で全旬を通じて潤沢な入荷となり、月間では佐賀産は前年をかなり上回り、長崎産と兵庫産は前年を大幅に上回った。輸入の中国産は現地価格が高く、業務用の剥きたまねぎの入荷のみだったため量は少なかった。月間全体では前年を大幅に上回り、平年をやや下回った。</p> <p>価格は入荷増量に伴って旬を追うごとに下落し、前年を大幅に下回り、平年をかなり大きく下回った。</p> |

(執筆：東果大阪株式会社 新開 茂樹)

(4) 首都圏の需要を中心とした6月の見直し

6月は西南暖地産が終盤を迎え、関東産から東北産へ、さらに平野から高原へと産地が移動していく重要な時期である。ここ10年、初夏の気候の振れ幅が広がりやすくなっており、野菜の出回りが不安定になり、価格が高止まりする傾向にある。夏本番の大産地である北海道産の干ばつと、関東以西の猛暑がリスクとなっている。この3月から4月にかけての温暖で、一部では生育が進んだが、4月下旬に入り、全国的な低温により生育にブレーキがかかって出回り不足になった。5月の高温は西南暖地の果菜類にとってはダメージは大きいと予想され、その分、東北産が進出した結果、その先の7月に出回り不足を招くといった不安定要因となりがちである。6月についても4～5月と同様に、平年より価格が高い展開が予想される。

根菜類



だいこんは、青森産は4月28日頃からハウス物が始まっているが、本格的には連休明けからと予想され、トンネル物に切り換わるのは5月中旬で、ピークは5月21日～6月上旬と予想される。その後は露地物となるが、市況を見ながらの販売となり、当面の予想では6月いっぱいの出荷と見ている。作付けは微減と予想しているが、人手不足により計画を達成できない可能性もある。2Lサイズ中心に出荷したいが、現状までの干ばつの影響により、やや細めの仕上がりである。北海道産の露地物(マルチかけ)が6月25日から始まるが、ほぼ平年並みのペースである。早い雪解けと3月の好天もあり、早まることが予想されたが、4月に入って一転、晴天が少なくなり、気温も低く、生育は足踏みしている。

にんじんは、千葉産の夏にんじんは5月20日以降に出荷開始となるが、ほぼ平年通りと予想される。「彩^{あやはま}誉」は6月にピークとなり、7月10日頃に切り上がると予想される。作付けは前年並みで、Lサイズ中心の見込みである。茨城産はハウス物が5月10日頃から始まるが、本格的には6月のトンネル物からと予想され

る。出荷は7月中旬までで、作付けは若干増えている。品種は「紅ひなた」である。



葉茎菜類

キャベツは、千葉産の現状は2週間ほどの前進となっている。3月下旬まで多く、4月上旬は少なくなり、4月下旬に量的に回復した。5月上中旬はまた少な目となり、その後下旬に回復して6月は多くなり、7月10日頃には例年並みに切り上がると予想される。群馬産は6月に入って標高700、1000、1300メートルの圃場^{ほしやう}からの出荷となり、現状は生育順調である。今年の天候は平年並みであり、生産環境は特別問題ない。徐々に増えながら推移し、大きさも例年並みと予想している。茨城産の現状は例年よりやや早めに始まっているが、ピークは5月20日過ぎ頃から6月いっぱいと予想している。寒玉系の品種で、生育は順調で肥大も問題ない。

はくさいは、長野産は標高1000～1200メートル地帯からとなり、早い物は5月下旬から始まると予想される。最大のピークは10月で、6月は徐々に増えながら推移し、6月としては前年並みを予想している。

ほうれんそうは、岩手産の現状は3月に播種^{はしゅう}した物が出始めている。秋に播種した冬越し物は4月いっぱい終了し、5月からは新物のみとなる。この作は天候に恵まれ、平年並みかやや多いと予想している。今後、強風被害や極端な低温がなければ、順調に推移すると予想される。岐阜産は例年よりやや早く、4月末頃から始まった。5月の連休明けから増えて、6月まで多く出荷でき、7月に入り減ってくると予想される。作付けは高齢化によりやや減っている。群馬産は6月中旬まで露地物、その後は雨除け物となり、生育は順調で、量的には前年並みを見込んでいる。

ねぎは、千葉産の初夏ねぎは6月いっぱいの出荷と予想される。4月の段階ではベト病の発生から品質低下し、出荷も少なくなっている。6月には病気もなくなり、ほぼ前年並みの出荷と予想される。茨城産は6月下旬から夏ねぎに切り換わるが、7月20日頃まで潤沢なペース

が続く見込みである。中心サイズはL、2Lと太りも良好である。6月は前年より微増と予想している。埼玉産は5月までは初夏ねぎで、6月からは夏ねぎとなって7～8月をピークに9月までと予想される。作付けは微増で、品種は「夏扇」である。

レタスは、長野産は塩尻市の標高600～700メートル地帯の産地からとなる。5月の連休始め頃からピークとなり、5月中旬に最も多く、6月には横ばいで推移すると予想される。同産の川上・南牧、野辺山の1200メートル地帯からの出荷は、6月に一度ピークが来て、7月は横ばいで推移すると予想される。若干早まる気配があるが、6月は前年並みの出荷を予想している。群馬産は生育順調で、連休頃に増えてきて、5月20日過ぎから6月がピークと予想される。

果菜類



きゅうりは、福島産の促成物は4月から始まり5月中旬にピークが来ると予想され、次のピークは6月上旬で、6月としては前年並みを予想している。作付けは前年並みで、生育は順調である。宮城産は定植を遅らせたことに加え、気温の寒暖差が大きいことなどが影響して例年より遅れており、3月から出荷が始まったがまだ大きなピークは来ていない。5月の連休後半頃ようやく本格的に増えてくると予想される。例年通りであればピークは6月中旬で、7月上旬から減ってくると予想される。高知産の越冬作は終盤を迎え、7月にはかなり少なくなる。当面のピークは5月中下旬で、6月に入り徐々に減りながら推移すると予想される。今年の作は全般的に不作気味であったが、5～6月は前年並みの出荷を予想している。宮崎産は4月の連休前から連休にかけて曇天だったため、5月に入って量的に現状よりも減ってくる可能性がある。それ以降もピークは来ず、6月まで横ばいで切り上がりが見込まれる可能性もある。

なすは、栃木産のハウス物は前倒しで始まり、ピークは5月中下旬でさらに6月も続く予想される。露地物は5月の連休明けから始まってくるが、4月の低温により花に影響が出ている

可能性がある。ピークは7月下旬から8月の盆頃で、5～6月はそれほど多くないと予想される。作付けは前年の95%である。福岡産は4月中旬に一度ピークが来て、現状はやや減っている。5月中旬に再びピークとなり、6月には減りながら推移すると予想され、1月の低温が影響して前年を下回っている。6月いっぱい切り上がるが、若干の生産者は7月第一週まで出荷できると予想される。高知産は例年5月中旬に最大のピークを迎えるが、連休の降雨により、ピークが下旬にずれることが予想される。6月には切り上がる生産者も出て、徐々に減りながら推移すると予想される。

トマトは、山形産が5月下旬から始まるが、例年よりやや早めである。ピークは6月15日から20日頃と予想される。品種は「りんか」でサイズはL中心、作付けは前年並みである。青森産は6月10日過ぎから例年並みに始まると予想される。作付けは高齢化により前年比微減であり、ピーク時期に比べると半分に届かない。品種は「桃太郎系」がメインであるが、今年は「りんか」が増えている。愛知産の出荷は6月末までを計画しており、品種「桃太郎ファイト」の生育は順調で、Mサイズ中心の見込みである。群馬産は標高700～1000メートルの圃場から、早い物は6月に始まると予想される。例年通りであれば8月がピークで、徐々に増えながら推移すると予想される。

ピーマンは、茨城産は2月までの低温が影響し、現状までは例年より少なめの出荷が続いている。4月に入っても低温の日が続き、やや膨らみが足りない。今後は春ピーマンのピークであり、5月の連休明けからの回復を期待している。越冬物は6月には終盤となり、7月上旬には切り上がると予想される。岩手産のハウス物は例年と同様6月上旬からであり、主力の露地物が始まる7月下旬から8月上旬が当面のピークと予想される。作付けは若干増えている。高知産は5月の連休前頃から6月中旬までピークであり、切り上がるのは7月10日頃と予想している。冬春ピーマンは12月の低温が影響し、やや不作気味であった。

土物類



ばれいしょは、長崎産は寒波の被害により早い作型の出荷が少なかった。連休前頃から出荷となる物は被害もなくピークを迎えると予想される。現状はMサイズも多いが徐々に肥大し、全体では豊作で平年を上回ると予想している。天候は悪くなく、作業も順調であるが、今後の降雨や市場価格次第では、出荷量に変化も出てくると予想される。千葉産の現状までの生育は順調である。品種はすべて「メイクイン」で、例年通りであれば5月下旬から収穫を始めて風乾し、6月中旬後半から出荷開始の見込みである。静岡産は5月20日過ぎから始まるが「三方原ばれいしょ」より1旬以上遅れての開始である。今年の計画は生産者の減少により前年比2割減の予想である。ピークも「三方原ばれいしょ」より遅れて6月中旬から7月上旬で、出荷は7月いっぱいと予想される。

たまねぎは、佐賀産の収穫は6月中旬で終了し、その後は貯蔵物を選果して販売する。早生まではL、2L中心であったが、その後はL・M中心でそれ程大玉でない。作柄としては平年並みで、7月にはかなり減ってくると予想される。兵庫産の本年産は大玉傾向で、前年を上回る収量と予想される。現状は早生の収穫の最中であるが、雨で圃場に入れない。6月後半からは貯蔵乾燥した物の出荷となるが、出荷量は前年を上回ると予想している。千葉産は4月16日から始まり、例年より10日程早まっている。5月の連休明け頃にピークを迎え、6月中旬までの出荷と予想される。1月の寒さで心配したが、3～4月の好天によりその後適度の降雨もあって肥大している。今後の市況によるが、量的には平年並みを予想している。

その他



アスパラガスは、新潟産が連休明け頃から増えてきて、15日頃に一度ピークが来ると予想される。6月10日頃に2度目のピークが来て、6月いっぱいではほぼ切り上がると予想される。

前年と前々年がそれ程多くなかったことから、本年は前年を上回る出荷を期待したい。昨秋に行った調査では株の充実は平年並みである。北海道産は4月に入ってから低温により、例年並みの5月20日頃からはと予想される。5月25日から6月上旬をピークに、6月いっぱいまで切り上がると予想される。前年の調査では株の充実は例年並みである。今年の収量は特別多くなく、また不作もないと予想される。

ブロッコリーは、青森産は雪解けが早かったため作業も順調で、6月初めから出荷が始まると予想される。ピークは10日頃からは、6月いっぱいまで切り上がると予想される。作付面積は前年並みである。北海道産は例年通り定植は始まっている。出荷は6月に入ってからで、最大のピークは7月と予想される。作付けは離農などにより前年を下回ると予想している。

かぼちゃは、神奈川産は6月上旬から始まるが、3月の好天により前進したが4月の朝晩の低温で平年並みに戻った。また、一部で結実が流れた可能性がある。連休時期に交配する物が6月20日頃ピークになると予想している。鹿児島産は5月8日から収穫開始の予定であり、例年よりやや早めである。出荷のピークは5月下旬であるが、6月も多く出荷されると予想している。作付けは前年並みで、品種は「えびす」が90%、残りは「栗五郎」である。

とうもろこしは、山梨産のトンネル物の早い物は5月10日過ぎから始まり、天候に恵まれて全体が前進している。ピークは6月4日頃からは、前年よりも4日程度早い。6月20日頃からは露地物も始まって7月10日頃までと予想される。作付けは前年並みで、品種は「ゴールドラッシュ」である。宮崎産は例年よりやや早めに始まっており、ピークは6月24日の週で、6月に入りやや減ってくるが、7月初め頃まで多く出荷されると予想される。作付けの減少と5月下旬の出荷物が霜害により減少しており、出荷量は前年を下回ると予想している。

えだまめは、群馬産は標高300～700メートルの中山間地からとなるが、6月上旬から始まり10月上旬までと予想される。茶豆系の品種は「味緑」それ以外は「新緑」でいずれもこだわり商材である。3～4月の好天により初期の生育は順調で、作付けは前年並みである。千

葉産は例年より一週間程度早まって、ハウス物は5月いっぱいまでと予想される。トンネル物は5月下旬に始まり、6月に入ってピークとなり、6月下旬には露地物に切り換わると予想される。作付けは前年並みである。

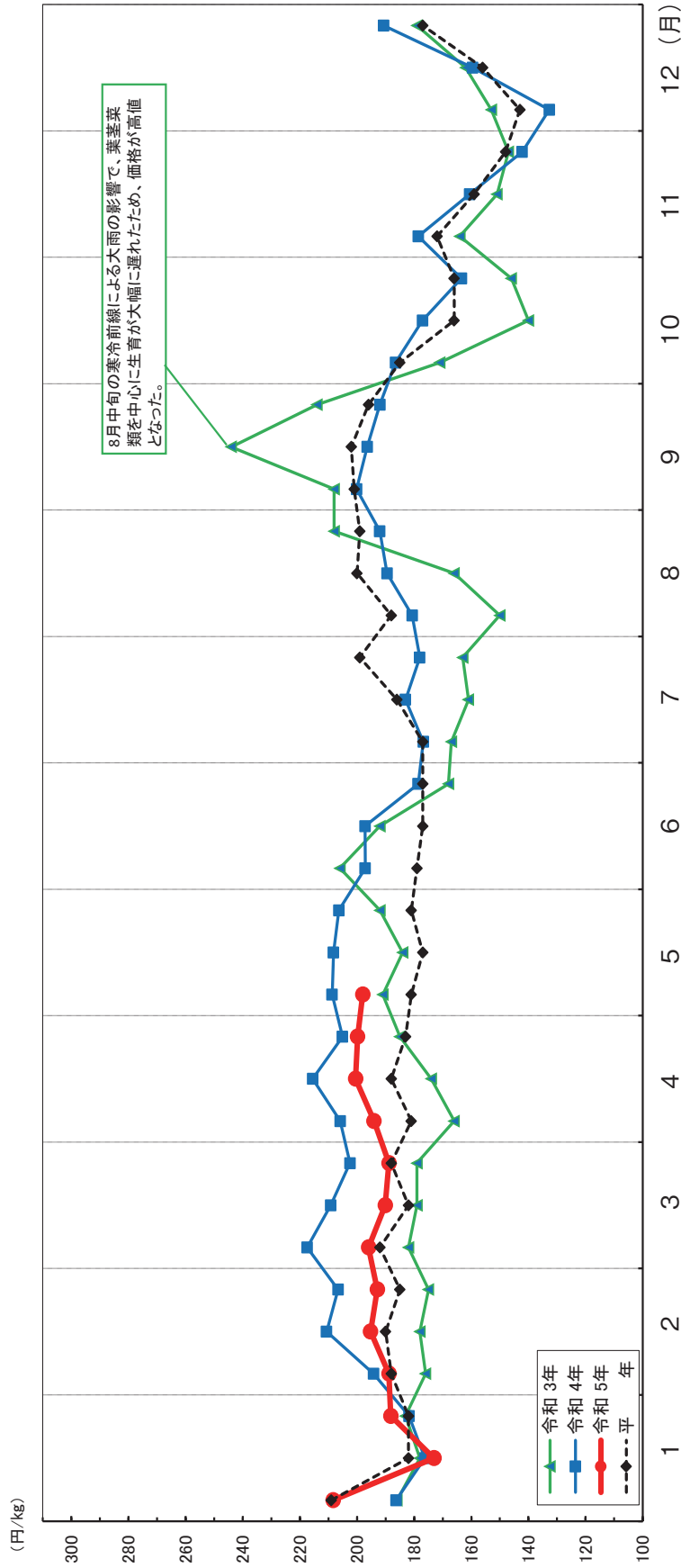
そらまめは、宮城産の蔵王地域は5月22日頃から始まるが、例年よりやや早い。ピークは出始めから10日後ほどの6月に入ってからで、6月15日には切り上がると予想される。作付面積は増えている。

にんにくは、香川産は5日程早く、早生品種が4月10日から始まった。通常品種はマルチ物が5月15日頃から始まり、5月いっぱいまでピークと予想される。生果の出荷は6月10日頃までで、その後は貯蔵・乾燥した物の出荷となる。生育は順調で中心サイズは2L・3Lと予想され、作付けは前年よりも若干増えている。

すいかは、鳥取産の出荷の始まりは例年並みの5月下旬からであるが、年々早まる傾向にある。ピークは6月25日から2週間で、この時期はトンネル物も始まりハウス物と併売されると予想される。全体の作付は前年並みで、中心サイズは3L・4Lである。

(執筆者：千葉県立農業大学校
講師 加藤 宏一)

(参考) 指定野菜の卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)



(単位：円/kg)

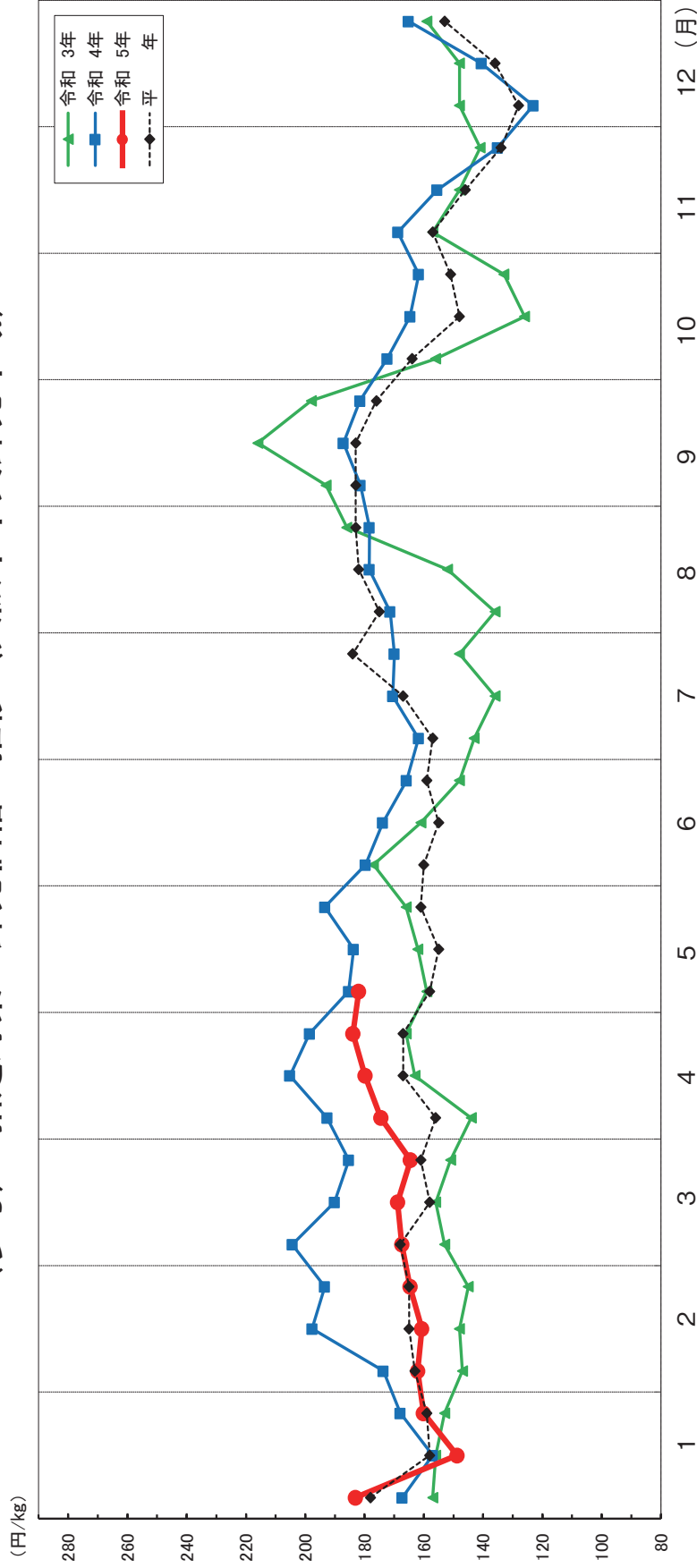
| | 1月 | | 2月 | | 3月 | | 4月 | | 5月 | | 6月 | | 7月 | | 8月 | | 9月 | | 10月 | | 11月 | | 12月 | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--|--|--|
| | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | | | | | | | | | | | |
| 令和3年 | 186 | 178 | 183 | 176 | 178 | 175 | 182 | 179 | 179 | 166 | 174 | 185 | 191 | 184 | 192 | 206 | 192 | 208 | 208 | 244 | 214 | 171 | 140 | 146 | 164 | 151 | 147 | 153 | 162 | 179 | | | | | | |
| 令和4年 | 186 | 176 | 182 | 194 | 211 | 207 | 217 | 209 | 202 | 206 | 216 | 205 | 209 | 208 | 206 | 197 | 197 | 179 | 177 | 183 | 178 | 181 | 189 | 192 | 187 | 177 | 163 | 179 | 161 | 142 | 133 | 160 | 191 | | | |
| 令和5年 | 208 | 173 | 188 | 189 | 195 | 193 | 196 | 190 | 189 | 194 | 200 | 200 | 198 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平年 | 209 | 182 | 182 | 188 | 190 | 185 | 192 | 182 | 188 | 181 | 188 | 183 | 181 | 177 | 186 | 199 | 188 | 200 | 199 | 201 | 202 | 196 | 185 | 166 | 166 | 172 | 159 | 148 | 143 | 156 | 177 | | | | | |

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注1：平年とは、過去5力年（平成30年～令和4年）の旬別価格の平均値である。

注2：豊洲市場、大田市場、豊島市場、淀橋市場の4市場のデータである。

(参考) 指定野菜の卸売価格の推移 (大阪市中央卸売市場)



(単位：円/kg)

| | 1月 | | 2月 | | 3月 | | 4月 | | 5月 | | 6月 | | 7月 | | 8月 | | 9月 | | 10月 | | 11月 | | 12月 | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | 上旬 | 中旬 | 下旬 | | | | | | | | | | | | |
| 令和3年 | 157 | 156 | 153 | 147 | 148 | 145 | 153 | 156 | 151 | 144 | 163 | 166 | 159 | 162 | 166 | 177 | 161 | 148 | 143 | 136 | 148 | 136 | 152 | 186 | 193 | 216 | 198 | 156 | 126 | 133 | 157 | 148 | 141 | 148 | 148 | 159 |
| 令和4年 | 167 | 157 | 168 | 174 | 198 | 193 | 204 | 190 | 185 | 193 | 205 | 199 | 185 | 184 | 193 | 180 | 174 | 166 | 162 | 170 | 170 | 171 | 178 | 178 | 181 | 187 | 182 | 172 | 165 | 162 | 169 | 156 | 135 | 123 | 141 | 165 |
| 令和5年 | 183 | 149 | 160 | 162 | 161 | 165 | 167 | 169 | 165 | 174 | 180 | 184 | 182 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 平均 | 178 | 158 | 159 | 163 | 165 | 165 | 168 | 158 | 161 | 156 | 167 | 167 | 158 | 155 | 161 | 160 | 155 | 159 | 157 | 167 | 184 | 175 | 182 | 183 | 183 | 183 | 176 | 164 | 148 | 151 | 157 | 146 | 134 | 128 | 136 | 153 |

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注1：平年とは、過去5力年（平成30年～令和4年）の旬別価格の平均値である。

注2：大阪本場及び大阪東部市場のデータである。